

令和6年度第1回秋田県社会教育委員の会議 会議録【要旨】

1 日 時：令和6年6月7日（金） 午後1時30分～午後3時

2 場 所：秋田地方総合庁舎 総605会議室

3 出席者 秋田県社会教育委員9名（5名欠席）
秋田県教育庁生涯学習課職員8名

4 内容

（1）開 会

（2）生涯学習課長あいさつ

（3）出席者紹介

（4）議事

〔説明〕令和6年度秋田県の生涯学習・社会教育の重点施策および事業について

〔協議〕令和5年度・6年度提言の骨子案について

（5）その他

（6）閉会（チームリーダー挨拶、事務連絡）

5 配付資料

- ・次第
- ・令和5年度・6年度秋田県社会教育委員の会議 名簿
- ・会議資料1 令和6年度秋田県の生涯学習・社会教育の重点施策および事業
- ・会議資料2 令和5年度・6年度提言の骨子案

6 議事

〔説明〕

【事務局】

- ・重点施策
- ・生涯学習・社会教育の体系
- ・学校・家庭・地域連携総合推進事業
- ・つながり、広げる子どもの読書応援事業
- ・ニューノーマルに対応した体験活動構築事業
- ・“あい”で見守る！あんしんネット構築事業
- ・秋田型教育留学推進事業
- ・障害者の生涯学習モデル事業
- ・豊かな感性と創造性を育む文化芸術体験活動の推進
- ・あきたMuseum機能強化事業

《質疑応答》

【委員】

今年度から文部科学省では、生成AIの取扱やフェイクニュースへの対応等に力を入

れるようである。あきた県庁出前講座は、これまでインターネットの使用方法やメディアリテラシーの習得に力を入れてきているようだが、今後はどのような内容で実施しようとしているのか。

【事務局】

あきた県庁出前講座は、インターネットの健全利用の啓発を目的に実施している。生成AI等も盛り込みながら、家庭教育支援に資する内容になっている。今後も文部科学省の動向を注視しながら、子どもたちが高校を卒業するまでに必要な知識や能力を身に付けられるように、子どもたちへの関わりが多い保護者や教職員等を対象に啓発活動を実施していく。

【委員】

ネットが普及している中、読書離れが非常に進んでいる。子どもは家に帰ってくるとYouTubeを見たりゲームをしたりしている。声掛けをしないと読書はしないという状況である。学校において、読書活動について特色ある取組をしているところはあるか。

【事務局】

小学校では、校内でビブリオバトルを実施している事例がある。ポップコンクールや読書感想画に取り組んでいる学校もある。

【委員】

秋田型教育留学推進事業について、利用した方がその後移住したり、再度来県したりという事例はあるか。各市町村でも（移住定住の）取組を進めており、そのような事例があると非常に嬉しい。今年度、短期チャレンジ留学に新規で取り組むところは決まっているか。

【事務局】

リピーターは多く参加している。移住については、五城目町で1組の事例がある。今年度、新規に取り組む市町村はない。

【委員】

文化芸術体験活動について、近代美術館のジブリ展は楽しみにしている。多くの来場があるのではと期待している。反響も知ることができるようにしてもらいたい。

【委員】

子どもたちのインターネット活用について、子どもたちは自宅に帰ってくるとYouTubeを見たり、友達と通信したりしながらゲームを楽しんでいる。県庁出前講座の健全利用啓発講座をもっと広めたほうが良いのではないか。大人も騙されることがあるので、親子で学ぶ講座があっても良いと思う。大人へのアプローチはどのように行なっているか。

【事務局】

あきた県庁出前講座では、ネット利用の低年齢化を受け、低年齢化対応講座を充実さ

せてきている。まだ講座を開催できていない市町があるので、今後も継続して広めていきたい。また、本講座で対象としている大人は、子どもに関わる保護者や教職員が多く、子どもへの関わり方をメインに取り扱っている。

【委員】

保育園協会などもあるので、広まってくれることに期待している。

【委員】

読書について、中高生のビブリオバトルは知っていたが、小学生に対しては具体的にどんな取組を行なっているか。

【事務局】

小学生に直接アプローチすることが難しいので、学校図書館活性化支援の中で、学校図書館担当教職員に対して図書館の整備や授業での活用方法について助言を行っている。

【委員】

読書について自分自身の経験を振り返ると、読書が好きという気持ちは小学校の読書活動の体験で得た。中学生・高校生になって本を読まなくなっても、大人になった時にも本の面白さは覚えている。小学生から読書の面白さを教えてあげるのが大事だと思う。

ネットリテラシーについては、本当に気を付けた方が良いと思う。実際にこんな怖いことが起こったということを教えてあげるのが一番ではないか。

【委員】

高校生には学校図書館の場所を知らない生徒もいる。小さい時に本を読んだ喜びや楽しかった思い出は、中学生・高校生になって時間がなくなっても、必ず読書の習慣として身に付いている。読書から離れる原因は、かつては部活、その後はゲーム、今はインターネット等、若い世代を刺激するものがたくさん出てきている。小さい頃からの習慣付けとして、最初は家庭で家族が読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりするところから始まると思う。

【委員】

本町では学校に読書支援員を配置しており、町立図書館職員との間で異動も行なっている。休み時間に子どもたちが学校図書館に来て、おすすめ本の絵を描いて貼ったり、それを見に来た先生が褒めてくれたりと、相乗効果で楽しい図書館になった。また、町立図書館では授業以外でも子どもが来たら受け入れ、話を聞いてあげたり一緒に図書の整理をしたりすることで、子どもたちがだんだん集まるようになった。子どもたちの読書量がすごく増えたのは読書支援員の力が大きい。学校図書館に常時人がいるということも大事である。

インターネットの利用については、兄弟の検診に連れてきた子どもがスマホを見てい

る様子も見受けられる。親も手が回らなくてスマホ渡してしまっている。そんな場面で地域の人が入って、読み聞かせ等ができれば良いと思う。

【委員】

本市では障害者の生涯学習を継続しており、オーダーメイド型社会教育主事派遣事業では大変お世話になっている。地元の特別支援学校の卒業生に対して、公民館・地域と連携し、スポーツ体験教室をしたり災害時の誘導を学んだり、地域の方々と交流する機会も作っている。生涯学習センターから来てくださる社会教育主事の方々は非常に積極的で親身で、公民館の事業についてもアドバイスをいただいております、来年からは更に充実できればと思う。特別支援学校の校長先生の話で印象に残っているのが「地域は教室であり、子どもたちは地域に生まれて地域のために役立ちたいと思っているので、それをサポートしてほしい」という言葉である。現在は仕事として関わっているが、仕事から離れた後も地域の人として関わっていききたい。

【委員】

社会教育主事について、司書や司書教諭、学芸員も取得するという動きはあるか。

【事務局】

県としては教員を対象とした社会教育主事有資格者の養成事業を実施しているが、それ以外の方の取得を促進する取組はしていない。受講希望者もいない現状である。

【委員】

短期チャレンジ留学について、一度事業を実施したことがある。そのときに来た子どもたちは台湾や、インドネシア、関東からであったが、夏休みに故郷に帰ってきた感覚だった。親が子どもに体験させたいから田舎に連れて行くという感覚だったが、それの良いと思う。来た子どもたちは無邪気に川に入ったり、とても大胆に遊んだりしていて、体験不足なのは地元の子どものほうかもしれないと思い、刺激をもらった。他のところもやってみると良いのでは。

もう一点、そのときに子どもから聞いた話だが、ある都道府県では県外にホテルを買い取って、住民が一泊二千円程度で自由に行けるようにしているとのことだった。同様の取組はどこの市町村でもできるのではと思う。

秋田県にある豊かな自然も資源の一つとして活用しながら展開していければ、地元の子どもたちも刺激をもらえるし、とても良い事業である。

【委員】

短期チャレンジ留学では観光資源や豊かな自然等を活用してもらいたい。人口が減少している中で、関係人口の増加を目指し、当初の狙い通りになっていけば良いと思う。市の行政担当の関心の度合いが影響するので、県から気を遣わずに「これは必要なのでやりましょう」とプッシュしてほしい。市の行政も若い職員が多くなり、イメージできないまま事務仕事として処理していくので、働きながら経験して育ってほしい。

[協議]

- ・「令和5年度・令和6年度提言について」

＜提言1＞新たな価値を生み出す社会教育

- 方策1 社会教育人材のネットワーク
- 方策2 地域人材や資源の確保とリスト化
- 方策3 デジタル環境整備とICTの活用
- 方策4 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進

＜提言2＞共生社会を目指す社会教育

- 方策1 住民のニーズ調査や主体的参画の醸成
- 方策2 学びのプラットフォームの構築
- 方策3 社会教育施設を活用した異世代交流
- 方策4 社会的包摂に向けた当事者とのワークショップ
- 方策5 地域コーディネーターやリーダーの育成
- 方策6 若者の人材育成

《意見交換》

【委員】

行動人の事業では人材リストの実績がある。その後どうなったのか。

リスト化するためには、各自治体から地域情報をもらい、逐次情報を更新していかないと前進しないのではないかと。委員や行政担当が変わっても、引き継いでいくようなシステムが必要である。

【事務局】

県生涯学習センター主管事業における「まなびサポートあきた」において、ネット上で生涯学習情報を提供している。行動人については、データリストとしては更新せずにアーカイブ化されて残っている状態である。かつての取組をこれから新たに差し込んでいくことは難しいかもしれないが、委員の御意見を伺いながら、まなサポの更新等、県教委としての再スタートの機会にしていきたい。

【委員】

（若者の人材育成という点では）五城目町は県外から移住し活動している方が多い。その仕組みづくりを参考にしてみてもどうか。

【委員】

県外の人材を社会教育や産業等に生かしているところがある。県の人口問題のキーワードになる気がする。

【委員】

秋田県内にいる若者の人材を発掘する必要性を感じている。参加を促す形ではなく、運営側から指名するような形にならないと前進しないし実現していかないと思う。

【委員】

県の産業労働部等でも人材発掘は進めている。効率よく進めるには最新情報をもっている県の他部署と連携していくことが必要ではないか。

【委員】

地域おこし協力隊は、地域のキーマンとのつながりが強い。日常的に地域に入っていく、キーマンと繋がることができる。地域おこし協力隊を活用してはどうか。

昨日ある町を訪問したが、協力隊を通じてアテンドしてもらったことで、町のキーマンとすぐに繋がることができた。トップと繋がれたり、既定路線だと繋がることは難しい人であっても、協力隊を介すと、いきなりアクセスできたり、次回から直接交渉できたりとつながりが生まれるので、協力隊がもっている人脈は侮れない。

【委員】

これからの時代、市町村連携は欠かすことができない。本市にも人材名簿があるが、それが活用されているかという点と疑問が残る。その点からも協力隊の力は大きい。

【委員】

地域おこし協力隊の担当部署ともっとコンタクトをとっていけばよかった。市町村同士の連携以前に、市の機関同士が連携しているのかということを考えさせられた。企画部と生涯学習の部署とで話をする機会を設けていきたい。

【委員】

異世代交流はどの市町村でも既に実施しているのではないか。そこではなく、施設の維持管理や施設の今後の在り方についてのことが実態に即した問題ではないか。本市では、公民館が地区交流センターとなり市長部局に移ったことにより、予算が付きやすくなった。施設修繕やWi-Fi機能の全館設置等もできるようになった。避難所にもなっていることもあり交付金の活用もできる。

「社会教育施設の活用」に記載されている「『学び直し』、リカレント教育、リスキリングの取組」については、国でも謳われていることではあるが、行政でやるべきものなのか疑問が残る。現場の立場から感じることは、民間に任せることも一つの手ではないだろうか。公民館事業として行うのであれば、企業等と連携し、教育的に進めていくのも良いと思う。